

〈研究成果の紹介〉

低アミロース小麦品種「あやひかり」の安定多収栽培法

農業研究部作物グループ

1. 成果の内容

近年育成された低アミロース小麦は、ツルツル感の強い麵用小麦粉原料として注目されています。農業研究センター(現 農業技術研究機構作物研究所)で育成された「あやひかり」もその一品種で、本年度から三重県の奨励品種に採用し、「伊勢うどん」などへの原料として県下で本格的な栽培が始まります。そこで、「あやひかり」の適作期、施肥方法などの栽培方法を検討しました。

「あやひかり」は、11月播種の収量が安定しており、また播種期が遅れた場合の収量低下は「農林61号」より小さい傾向にあります。しかし、播種期が遅くなるほど外観品質、千粒重、粉色が低下する傾向があるため、11月上旬～中旬の播種が適すと考えられます。また、11月播種では「農林61号」に比べて2日程度ですが成熟期が早く、早生小麦としても期待ができます(表1)。

次に、施肥は基肥、穂肥ともに多肥栽培で多収となる傾向があります。しかし、多肥では、外観品質や粉色が低下します(図1)。また、耐倒伏性は高い

品種ですが、基肥を多肥にすると倒伏するケースもあります。高品質な「あやひかり」を生産するためには、基肥として窒素0.6kg/a、穂肥として主茎6葉期に窒素0.2kg/a+止葉抽出期に窒素0.2kg/aの施用が適当と考えられます。

2. 技術の適用効果と適用範囲

普及品種である「農林61号」より耐倒伏性が高く、小麦縮萎縮病に耐性の高い「あやひかり」を導入することによって、県産麦の生産が安定します。また、新たな麵食感をもつ低アミロース小麦を用いて「伊勢うどん」等の県特産品の振興が図れます。

3. 普及・利用上の問題点

砂壤土等の地力が低い土壤では、枯熟れ症状が発生しやすいので、肥沃な土壤条件での栽培地を選択してください。水田輪換畑の場合は播種前に土壤改良材、堆肥等を施用し、土づくりを行いましょう。また、「あやひかり」は、播種深が深い場合や播種時の土壤水分が高い場合に、出芽率が低下することがあるので注意が必要です。

(神田 幸英)

表1 播種期が「あやひかり」の熟期、収量、品質およびばす影響(H11~H13)

	播種期 (月/旬)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程度 (0-4)	精麦重 (kg/a)	外観 品質 (1-7)	原粒 タンパク (%)	粉色 (L*)
あやひかり	10/下	4.05	5.31	無	46.5	3.8	7.9	84.2
	11/上中	4.13	6.02	極微	53.3	4	8.4	85.1
	11/下	4.02	6.08	極微	52.6	4.8	8.9	84
	12/中	4.25	6.11	無	43.1	5	9.6	83.4
農林61号	10/下	4.08	5.31	微	44.3	3.7	7.6	85.3
	11/上中	4.14	6.04	中	51.3	4.2	8.4	85.3
	11/下	4.22	6.01	中	44.9	5.8	9.5	83.6
	12/中	4.27	6.11	中	37.6	6.2	9.6	84.6

注)外観品質1:上の上~7:下。粉色値(L*)は数値が大きいほど良好。

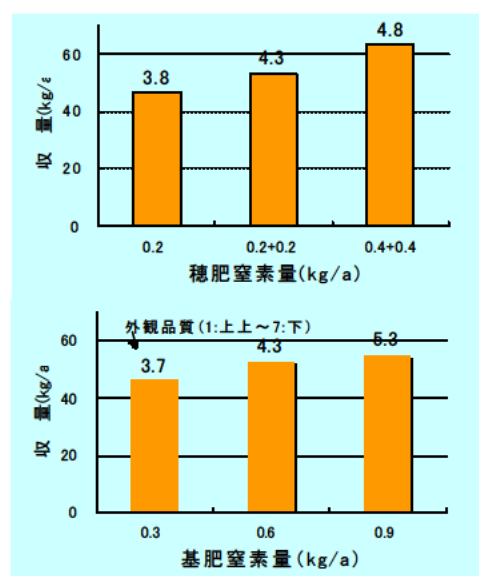


図1 施肥窒素量と収量・品質の関係